

平成18年度藤崎老人いきいの家の管理運営に対する評価について

1 指定管理者

(1) 指定管理者	日本労働者協同組合連合会 センター事業団 川崎事業所 (高津区久地4丁目13番3-204)
(2) 指定期間	平成18年4月1日 ~ 平成21年3月31日
(3) 業務の範囲	1 老人いきいの家の運営等に関する業務 ア 教養の向上及びレクリエーション活動に関する事業の実施 イ 利用者の自主活動に対する活動の場の提供 ウ 入浴事業 エ 川崎市及び川崎市から事業を委託された団体が実施する事業への場の提供 オ 運営委員会の設置・運営に関すること 2 利用の許可に関する業務 3 老人いきいの家の利用等の報告に関する業務 4 施設等の維持管理に関する業務

2 管理運営(事業執行)に対する評価

評価項目	平成18年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) 管理業務の実施状況		
①管理運営の基本的事項	老人いきいの家が、高齢者が高齢期を豊にその人らしく生きるための一つの活動拠点となり、利用者自身が「いきいの家」の当事者になり、高齢者がいきいきと過ごせる場、誰もが気軽に利用できる場となるようその環境づくりを目指した。ニーズについては、利用者の生の声を聞くことや、町会長、民協会長、利用団体代表の方々等との懇談により把握に努めた。高齢者への配慮としては、傾聴と観察を重視し、衰えていくことを意識して状況の把握に努め、また積極的な声かけを行った。さらに、公平にサービスを提供するため、特定の個人や団体を特別扱いしないよう徹底し、はじめて利用される方でも分け隔てなく接した。	運営委員会を通じたニーズ把握及び地区社会福祉協議会との連携により、地域に根ざした施設として、概ね適切に管理運営がなされている。また、管理人による声かけや教養講座申込状況・団体貸出申込状況の公開など、高齢者の心身や公平なサービス提供にも十分な配慮がなされている。
②安全管理への取り組み	緊急時・災害時の対応を定めた「安全配慮マニュアル」を作成して職員に徹底させ、安全チェックリストを作成し日常的に点検した。また、避難誘導訓練及び備品・災害用品等の点検を実施した。また、入浴事業にあたっては、血圧測定は自己管理とし、来館時のちょっとした会話などに気を配り、通常よりも入浴時間が長い場合は、声掛け等で利用者呼びかけた。さらに、身体に障害等ある方は、他の利用者と一緒に利用してもらえよう依頼した。	概ね適切な安全管理がなされている。高齢者の入浴の危険性を年頭に置いた取組みは評価できる。
③運営に関する業務	健全ないきいの場と健康増進を図ることを目的に教養講座を実施し、また、自主活動に対するサポート(相談と援助、支援)を行った。教養講座の広報にあたっては、掲示板への掲載、口コミによる宣伝を行い、当日参加の形を取った。入浴事業については、風呂湯に消毒剤を投入。入浴前後に、風呂湯の残留塩素を測定し記録した。	年度を通じて概ね順調に運営が行われている。また、入浴事業についても、公衆浴場として関係法令に従い、実施されている。今後は、新規利用者確保の点から、教養講座の広報の充実化が期待される。

評価項目	平成18年度管理運営の状況	評価及び指導																
(2) 利用状況																		
①利用状況	<table border="1"> <tr> <td>団体利用者数</td> <td>1,948 人</td> </tr> <tr> <td>個人利用者数</td> <td>11,492 人</td> </tr> <tr> <td>利用者数</td> <td>13,440 人</td> </tr> <tr> <td>入浴者数</td> <td>976 人</td> </tr> </table>	団体利用者数	1,948 人	個人利用者数	11,492 人	利用者数	13,440 人	入浴者数	976 人	前年度の状況と比較し、利用状況はほぼ安定している。事業内容や広報を工夫するなどして、引き続き新規利用者の増加に努めることを望む。								
団体利用者数	1,948 人																	
個人利用者数	11,492 人																	
利用者数	13,440 人																	
入浴者数	976 人																	
②講座・行事の実施状況	<table border="1"> <tr> <td>教養講座実施回数</td> <td>106 回</td> </tr> <tr> <td>教養講座参加人数</td> <td>2,284 人</td> </tr> <tr> <td>行事実施回数</td> <td>0 回</td> </tr> </table>	教養講座実施回数	106 回	教養講座参加人数	2,284 人	行事実施回数	0 回	平成17年度から継続実施の教養講座は順調に実施されている。今後は、運営委員会と調整の上、事業計画書に基づき介護予防の視点に立った講座の実施を図って欲しい。										
教養講座実施回数	106 回																	
教養講座参加人数	2,284 人																	
行事実施回数	0 回																	
(3) 収支状況																		
① 収支状況	<table border="1"> <tr> <td>委託料</td> <td>2,723,700 円</td> </tr> <tr> <td>指定管理委託料</td> <td>2,723,700 円</td> </tr> <tr> <td>支出金額</td> <td>2,634,627 円</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>2,086,989 円</td> </tr> <tr> <td>事務費</td> <td>297,938 円</td> </tr> <tr> <td>事業費</td> <td>120,000 円</td> </tr> <tr> <td>消費税</td> <td>129,700 円</td> </tr> <tr> <td>収支差額</td> <td>89,073 円</td> </tr> </table>	委託料	2,723,700 円	指定管理委託料	2,723,700 円	支出金額	2,634,627 円	人件費	2,086,989 円	事務費	297,938 円	事業費	120,000 円	消費税	129,700 円	収支差額	89,073 円	委託料の範囲内で適切な執行を行ったことは評価できる。今後ともサービスの質を維持しながら、適切な委託料の執行を望む。
委託料	2,723,700 円																	
指定管理委託料	2,723,700 円																	
支出金額	2,634,627 円																	
人件費	2,086,989 円																	
事務費	297,938 円																	
事業費	120,000 円																	
消費税	129,700 円																	
収支差額	89,073 円																	
(4) その他																		
① 利用者からの意見・要望等への対応	<p>日常的に一人ひとりの利用者の話を良く聞くことを心がけ、直接、相談しづらい内容については、意見箱を設置した。</p> <p>受け付けた内容に対して、基本的には管理人が対応し解決し、管理人では解決できなかった部分については、運営委員会で対応した。</p> <p>(利用者意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・囲碁のスペースを広げてほしい。 <p>(対応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会で検討した結果、認められない旨利用者に伝え、納得してもらった。 	利用者からの意見・要望等が出しやすいよう工夫されており、対応体制もしっかりしている。今後は、事業計画書に基づき利用者や高齢者との懇談会やアンケートに取り組むこと。																
② 個人情報の保護	<p>研修にて個人情報の大切さを学習し、「個人情報保護規定」及び川崎市の個人情報保護条例を管理人に徹底した。また、緊急連絡先等の個人情報が載っている書類は鍵のかかる棚に保管し、管理責任者は事業所長とした。</p>	緊急時に備えて利用者の個人情報を保有しているが、方針に基づき、協定に従って適正な維持管理が行われている。今後とも個人情報保護の徹底を望む。																

3 管理運営(事業執行)に対する全体的な評価

平成18年度においては、指定管理業務を開始して1年目でありながら、概ね事業計画に沿った管理運営ができており、平成17年度までの運営を踏まえた上で、全体的に安定した管理運営がなされている。引き続き高齢者の健全ないこの場として高齢者の心身の健康増進に寄与できるよう、さらに多くの高齢者に利用してもらえるように努めて欲しい。

4 来年度の管理運営(事業執行)に対する指導事項等

- ・事業計画書にある広報誌「いこいの家ニュース」等を利用し、教養講座の広報に努め、新たな利用者の確保に努めること。
- ・運営委員会と調整の上、事業計画介護予防の視点に立った教養講座及び行事を実施していくこと。
- ・利用者や高齢者との懇談会やアンケート調査を実施し、さらなる利用者意見の把握に努めること。